



邪馬台国の謎 (歴史の優劣と客観性)

3月③のごあいさつ

山内公認会計士事務所
2021年3月22日(月)

2千数百年前、中国では、**西欧の近代**が既に存在していたと言える。

それは、中国の時代で言えば、**春秋の末から戦国、秦漢の時代**である。秦や漢には当時の西欧をはるかに超える強力な国家が出現し、**鉄という生産性の高い道具**の活用により、古代中国の社会を変動させ、拡大、深化させたことにより、形容しがたいほどの**社会の発展が実現**され、思想も**諸子百家**と言われる活気を呈した。

一方、日本には文字は無く、漢字の伝来は、6世紀を待たねばならなかった。

中国の三国志の「**魏志倭人伝**」に記されている2世紀後半から3世紀前半頃の日本、「倭」にあった最も強大な国「**邪馬台国**」が九州にあったのか、畿内にあったのかは日本史の最大の謎であるが**これは日本史の貧弱さの現れ**である。

女王「**卑弥呼が支配**」し、中国の三国時代の魏の皇帝に使を送り、「**親魏倭王**」の**印援**を授かったことは、「魏志」に記録されているからその存在は確実である。しかし、日本史ではその所在が明らかでない。

では何故、日本の正史とも言うべき、古事記、日本書紀にその存在が記されていないのだろうか。それは将に、日本に文字が無かった、記録が書かれたのはAD700年代であるというのでは、**理由にならない**。つまり、記紀という日本の**正史の信頼性が低い**ということになるのである。

邪馬台国の女王卑弥呼が魏の皇帝から親魏倭王の号を受けたのが、AD239年である。それより約50年後、**神武天皇が高千穂(宮崎県)から遠征**し、大和朝廷(奈良県)を創始し、倭国の覇者となったというのは明白である。

伝聞記録とは言え、**記録に邪馬台国が無いのは不思議**であるが、第二次大戦前の記紀を正史とする歴史において、神武天皇の即位はBC660年と上記と800年余の開きがあることや**国家や天皇家の都合**によりその調整、客観的な処理を行わなかったのであろう。

これと比較して思うのは、BC80年頃、中国の最初の歴史「**史記 130巻**」を完成した**司馬遷の偉大さとその記述の客観性**には驚くばかりである。

漢字の発明は、約3500年前と言われているが、**司馬遷は、史記(2100前)以前の中国2000年の歴史を史実と客観性に基づいて完成**し、その**真実性は現在に至るまで不動**である。日本の史書のレベルは低く、それは**国民のレベル**ではないかと、嘆くばかりである。